

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和2年度 第33号
2021. 2. 5発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 緊急事態宣言が延長されました。 ◆◆

3月7日までの延長となりました。学校については、一律の臨時休校（いわゆる一斉休校）は、引き続き要請されませんでした。前回とった措置（下記に再掲）を継続し、神奈川県内の感染拡大防止に少しでも協力体制をとりたいと思います。

【引き続き実施する措置】

- 放課後再登校による学校校庭の開放を一時中止とします。（4時5分の完全下校を徹底します。）
- 放課後サポート教室の開催を、宣言が明けるまで一時中断とします。
- 引き続き児童・生徒等の心のケアに努めるとともに、いじめ、偏見、差別等の防止に向けた取組、指導を徹底していきます。
- 児童・生徒等の登下校時や、帰宅後の外出時(不要不急の外出は控えること)における感染防止のためのマナー等について適切に指導していきます。併せて、保護者の皆様へも、家庭での感染予防に協力をお願いいたします。
- 学習（授業）の原則や、各教科対応や、登校不安等に対する出席停止措置なども引き続き継続します。皆様のご理解ご支援をお願い申し上げます。

◆◆ 児童会運営委員選挙が終わり、新しいメンバーが決まりました。 ◆◆



以下、児童が作った運営委員会だよりから紹介いたします。

1月29日に運営委員選挙がありました。
 たくさんの立候補者の中から、4年生から5人、5年生から5人、計10人の運営委員が選ばれました。

4年生	5年生
-----	-----

この10人がこれから長柄小学校を引っ張っていきます。一年間よろしくお祈りします。（引用はここまで）

感染対策をできるだけとって実施された立ち会い演説会から、立候補者の様子を見させてもらいました。

皆、実に堂々と立候補演説や応援演説をしていたり、工夫した演説に取り組んでいたりと、感心させられました。

結果が、大接戦だったとも聞いています。当選した運営委員さんは、残念にも落ちてしまった仲間の気持ちも受け止めて、一生懸命頑張ってくれることを心から期待します。

コロナ禍の中でも「自分も人も大切に」できる、仲良く、楽しく、励みのある学校を作ってください。



◆◆ 2/3 に学校評議員会兼学校関係者評価委員会を開催し、学校評価に係るご意見をいただきました。 ◆◆

密を避ける形で学校に集まり、学校の分析に対し、各委員からご意見をいただいたものを掲載します。番号の後の文が、**学校の分析の中身を簡単に要約したものです。**

(1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校

「教える授業」からの授業改善が教員の意識に表れたこと、「主体的・対話的で深い学び」の実現については校内研究で引き続き取り組むこと、次年度はクロームブッカー一人一台時代を迎え、ICT機器の有効活用を巡って、授業の姿が変わる可能性があることなどの分析について……

- ・学校で行っていることが遠目でしか見えない。ICTの有効活用の一環でそこが改善されればよいが、子どもは使い方や考え方が進んでいくと思うが、保護者としても使い方や考え方が進んでいく必要がある。どんな風に使っているのか分かりづらいことが不安なので、その辺の情報があれば子どもへのアドバイスに繋がる。
- ・理科の先生方の実践がキーポイントになるので、授業での使い方や効果など、報告書を出していくことが他の

先生方や保護者にも伝えていく一つの方策に思う。

- ・ ゆくゆくは全教科で使うことも予想されるので、ブルーライトが一日中目に入ることへの適切な判断も必要だと考える。クロームブックを活用した仕組みのすごさは感じるが、これで子どもが本当に勉強していけるのか、教師の目線と保護者目線は違うと感じている。機能のすごさではなく、子どもに合っているかどうかは保護者には気になると思う。
- ・ 子どもは考えて表現するのに時間がかかるタイプなので、ICTの仕組みに適性があるのか気になる。
- ・ 小中連携の情報の交流になると思うが、南郷中でもICTを活用した授業実践例が校内研究で披露された。課題は授業前に数時間の講習が教師側も生徒側も必要だったことだ。小学校の活用が始まればその必要がなくなり、その時間を学力向上に割けると考えている。大切なのは、目的は使うことではないことだ。学習の目標の方が大切であり、クロームブックは文房具の一つとして使えばよい。
- ・ 新しい機器クロームブックのことが分からないことを笑われないように、一生懸命分かろうとしている。授業のやり方がどうなるかではなく、学習のあり方がどうなっていくのかの方が重要に感じる。
- ・ 分からない人に分かるように伝えていくことは、学校の役割だと感じている。

(2) 豊かな心を育み、信頼でつながった学校

教職員と児童との意識の差に留意していきたいこと。教育相談関係で外部機関との連携等で成果があり、次年度も継続したいこと。アンケートの、主語の範囲を狭め、「教職員→自分」「長柄小の児童→自分の子ども」のように変更したいこと。

- ・ 他機関連携の一例として、学童施設との連携も進めてほしい。可能ならば連携会議に呼んでいただきたい。
学校の信頼を得ていくためには、どんなことが考えられますかと司会が振ると……
- ・ (そういうところを見ていてくれるのだと) 面談内容に嬉しくなる先生と、ありきたりのことを伝えてくる先生がいるように思う。嬉しい先生ばかりなら、安心して預けられると思う。
- ・ 私も担任の先生の評価しかできない。
- ・ 学校を評価する手立ては正直何もない。担任評価はできるが、学校はつかめないので評価できない。
- ・ 学校行事で評価するのも難しい。子どもから信頼されているかがまず第一だと思う。
- ・ 学校の信頼はトラブルがあったときの対応等で判断するしかないのだろうと思う。
- ・ 基本的には教員の資質によるところもあると思うが、何でも話し合えるような職員室の雰囲気を作ることも大切だと思う。
- ・ コロナ禍にあって、幼稚園で園の様子を配信してくれたのが良かった。学校も同様な工夫があるといい。
- ・ 保護者が学校に行く機会が限りなく少なくなる中、確かに配信があるととても良いのかもしれない。先生方の負担を増やしてしまうかもしれないが、学校全体を評価できるきっかけにはなると思う。

(3) 地域を愛し、地域から愛される学校

具体策が10月のコミュニティ・スクール学習・説明会のみにとどまったコミスクへの準備は、職員の学習会、地域・保護者への学習会等を確実に実施して、議論の不足や不安感の解消に努めなければ、上がらないと判断する。一方、校内研究が進んだ結果、地域教育力・地域資源の活用については進んだと分析している。学校(校長)としては、「地域を愛し、地域から愛される学校」の実現に向けて一層の努力を続けていきたいと考える。

- ・ 校長の熱意を強く感じ、いろいろと試みているように思っている。
- ・ 地域の者としてこの会議に参加して、刺激を受けながら、どのように絡んでいけばいいかと考えている。時々学校に来ることで子どもと顔見知りにもなれているので、地域の者として小学生に話していけることや機会を見つけないかと思っている。
- ・ 月に一度、長柄地区の評議会が開かれている。その場に校長が来て、学校の様子や、コミュニティスクールについて話しに来てほしいと思う。→そんな機会があるなら、是非活用させていただきたい。とても良い提案と受け止めた。是非実現していきたい。葉桜・イトーピア地区にもあれば出かけていく用意がある。
- ・ ICTの説明と同様に、コミュニティ・スクール化がどういう風に進んでいるのか、説明や学習会があるといいと思う。とくに「長柄小学校(長柄地区)では、どういった狙いを持ってコミュニティ・スクール化を目指すのか」という「長柄スタイル」の切り口がクリアに分かる説明会・学習会が開かれるといいと思う。

(4) いじめ防止に向けた対策

職員アンケートで分かる職員の意識の高さは、健全な学校を維持していく上での大きな原動力になると考える。教職員の意識はこのままで、「早期発見・早期解決」で一層の努力、一層の成果を上げていくことが目標となる。アンテナを高く持ち、担任教師の孤立を防ぎ「チーム長柄」でサポートする体制を維持すること。小さなことでも見逃さない学年・学校間での報告・連絡・相談の意識の強化が必要であると考え。

- ・ いじめはどこにでも起こりうるとしっかり捉えて、学校の最重点目標としてその防止に取り組んでほしい。いじめに関心を払えば、子ども一人一人を丁寧に見ていくことに繋がっていくことになるので、そんな指導を学校として進めてほしい。
- ・ 今まで子どもがいじめに遭っていないから、正直分からないので、言い様がない。
- ・ 性別の違い、容姿の違い等々、いじめに繋がる要素はどこにでもあると思う。一番の重点と捉えて、その芽が出てこないように取り組んでほしい。
- ・ いじめられる子にも何らかの理由があるといっている限り、いじめはなくならないと思う。いじめている子の言い分にはしない方がよいと思う。